
2018年11月23日(金: 勤労感謝の日) マイカ 豊漁丸 ツレと
大潮(満月): 旧10/16 満潮15:36(24cm) 干潮20:11(17cm) 満潮26:02(31cm)
マイカ(胴長22~27cm 大型) 真史: 1 3杯 ツレ: 1杯
アジ 35cm 1尾 ツレ

15時00分 釣り座抽選
(抽選の1時間前に酔い止めを飲むこと)
15時40分 出船

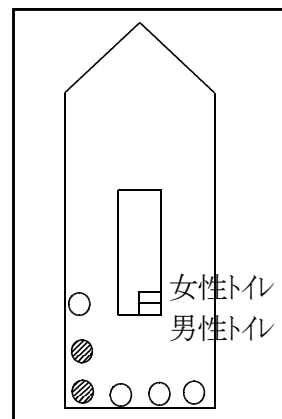
17時00分 釣り場に到着
12時00分 納竿

【マイカ仕掛け】

基本 すべて新品 エギとプラスチック魚(青色)のみリユース

- 浮きスッテ2.5号 上から、赤緑、赤白、エギorプラスチック魚(青色)、赤緑、赤白 プラスチック魚(青色)に大型が一杯かかった。
- 一番下は、目立ちやすい色にした方が確認しやすいから、赤白とする。
- 幹糸4号枝間1.2m 上下も1.2m 全長7.2m ハリス3号3cm~5cm
- おもり 100号(すべてなくしてからは120号) 水中ライトなし
- 電動リール 真史:シーボーク300J ツレ:電動丸3000XH
- 竿 シマノ YOIKA BB 6:4 2.1m 錘負荷30-100号 ツレ用
シマノ YOIKA BB 7:3 2.25m 錘負荷50-120号 自分用
トレジャーハンター 5:5 3.3m 錘負荷30-80号

電動リールとともに置き竿用に持参したが、満席で使用できず。
船長から、錘負荷50号の竿がよいと教えてもらった。



【料金】

- 船代 ¥13,000×2名 (氷付き) 半夜ロング便
- 関ヶ原IC~敦賀IC 高速代 ¥1,270×2(往復;ETC割)

【様子】

- 良型がたくさん釣れていることから、予約が遅いと満席になるので3週間程前に予約を入れた。当日は満席だった。
- 敦賀当日の天気予報では曇りだったが、雨だった。結構、降った。
- うねりがひどく、ツレは初めからダウン。抽選時間の1時間前に酔い止めを飲むべきだった。飲むのがおそかった。
- 釣り開始はすでに暗くなっていた。「胴付きの方はおもり100号、鉛スッテの人は20号。水深90m。60mから下を誘ってください。」とアナウンス。
- 終日、棚は90m(底)~60mだった。底や深いところで掛けたイカは特に大型であった。
- 底で一杯掛けた。ツレに「底」と伝えた。
- ツレも底でサバを掛けた。次はアジ。そして、マイカ。ツレはそれ以降釣ることができなかつ

- た。船が大きく上下するためか、置き竿にしていると胴調子(6:4)の竿は当たりがわかりにくかったとのこと。先調子(7:3)でも同じかもしれない。手持ちなら胴調子でも分かると思われる。
- 自分も酔い気味。底でつれないので、低速自動巻き上げにした。気持ちが悪くて手で竿を持ってない。置き竿である。
 - シーボーグ300Jでスピード1で数回試すがだめ。遅すぎるのではないかと考え、スピード6で開始。おもり100号である。すると当たりがあった。ダブルだった。それ以降、スピード6とした。
 - 釣れない。当たりがない。右隣の人を見た。釣れている。底で釣っている。すべてのスツテが赤緑。投入器持参だった。6本バリだったかな。底での釣り方は、おもりを底に沈めてラインをたるませている。まねることにした。
 - 「ウタセマダイでは、おもりを沈めて1mくらいふかせておくか、1m上げておく。おもりが海底をたたくのは良くない。」ということを知っていたので、たるませておいた。船がかなり上下するので、たるませる糸の量が結構、長かった。これで少し釣れた。
 - やがて、仕掛けを魚に切られ、おもりが120号しかないという状況になった。100号ならスピード6だったので、120号であるならもう少し速くと考えスピード8で巻き上げた。
 - 以前、巻き上げながらしゃくりを入れて釣ったことを思い出し、試みた。
 - おもり120号で巻きスピード8。竿は下向き。竿先が水平になる程度に1回シャクリ、待つ。待つ時間はカウント8(1から8まで数える)。この間にラインは1m巻き上がってくる。待っているときに当たりがある。このパターンで釣果が伸びた。
 - 当りはグングンと竿先が下がるということは少なかったように思う。竿先がふぁ〜と浮き上がり、電動リールで糸ふけを取ると、竿先が重くなり釣れたことが分かるというパターンや、もぞもぞとイカがスツテを触っているという感じのときは、一瞬ゆっくり目で巻き上げ、その後ビューンとスピードを上げて巻き上げてくるとグンと当たりがあるというパターンなどであった。
 - イカが掛かって巻き上げるときも手持ちで行う。手持ちであっても身切れが2回あった。途中で魚に食われて、イカがぼろぼろになって上がってきたこともあった。
 - 巻き上げ後はキャッチを意識してフォールさせた。当りは一度もなかった。
 - ツレの竿も使おうと仕掛けを落とす途端に切られた。鯛ラバで鯛を釣った人とお祭りし、最後の仕掛けもなくなった。船上で購入。¥1,500だった。
 - 船上で購入した仕掛けは、2.5号スツテが4本付いていた。ハリス6号、幹糸8号、枝6cm、枝間2m、上下90cm、全長7.8mだった。すぐに2番目のスツテが魚に取られた。
 - 掛かったのは、一番上の赤緑 一番下の赤青だった。
 - 22時に減灯した。これまでに7尾。減灯後、6尾。減灯前後でよく釣れた。

【釣り方1 底で釣る】

- おもりを底につけておく。船の上下でおもりが海底をたたかないように糸を出しておく。
- 当りは、ラインの変化で取る。

【釣り方2 低速自動巻き上げ】

- おもり100号 ダイワ シーボーグ300J スピード6

【釣り方3 巻き上げで釣る】

- ダイワ シーボーグ300J おもり120号のとき
- おもり120号で巻きスピード8。竿は下向き。竿先が水平になる程度に1回シャクリ、待つ。待

つ時間はカウント8(1から8まで数える)。この間にラインは1m巻き上がってくる。待っているときに当たりがある。

【イカが掛かったときの回収】

○回収は手持ちで行う。

○ダイワ シーボーグ300J おもり100号でも120号でも、回収スピードは13～14。

【仕掛けの準備】

○魚にやられるということもあるので、すべて2セットずつ用意した方がよい。